

年度当初の eALPS への学生登録

eALPS 上のコースは、学生登録方法により下記の Type1, Type2 の 2 種類のコースに分けられます。事前に依頼がない場合は Type1 となりますが、途中変更もできます。

Type1 の流れ

1-1. 学生が各自でコース登録 [学生 (未履修登録)]
履修登録期間中は、履修登録提出の有無に関係なく学生が自由にコースに登録することができます。eALPS 上では、コースに自主登録した学生は、全て [学生 (未履修登録)] として登録表記されます。

学務・教員からの依頼により自主登録できないコース (Type2) に移行した場合、その時点で自主登録した学生は、そのコースから削除します。

1-2. 履修登録データを反映し各コースに学生を登録 [学生] (自主登録した [学生 (未履修登録)] は削除)

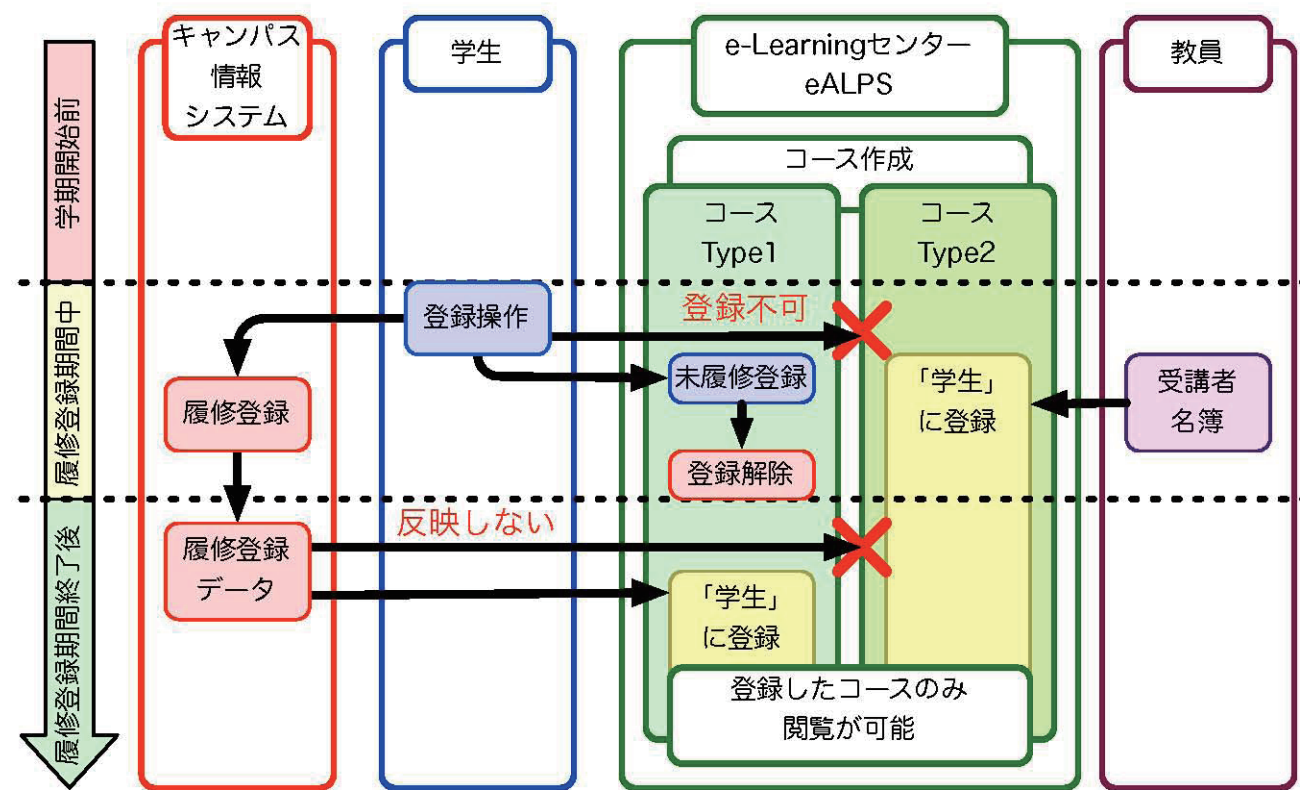
履修登録期間終了後、自主登録した [学生 (未履修登録)] を削除し、履修登録データを各コースの [学生] に登録します。(履修登録データ反映後は、いずれのコースでも自主登録することはできません。)

Type2 の流れ

必修科目等で事前に受講生名簿が入手でき、学務または教員から依頼があったときは、履修登録の有無に関係なく、e-Learning センターが学生をコースに一括登録することができます。

学生の一括登録確定コースまたは予定コースは、履修登録期間中でも学生が自主登録することはできません。また一括登録したコースは、履修登録データの反映は行いません。

ここでご紹介した eALPS への学生登録方針の詳細は、e-Learning センターのホームページで参照することができます。また本方針は、e-Learning センター運営委員会で決定され、第 86 回 教育研究評議会 (H22.10.20) で報告されたものです。



お問い合わせ先

e-Learning センター

HP : <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/e-L/>

e-mail : elearning@shinshu-u.ac.jp

研究開発運用部門

e-mail : eaips2@shinshu-u.ac.jp

tel : 0263-37-3230 (内線 : 811-7171)

ICT 活用支援部門

e-mail : eduel-sp@certms.shinshu-u.ac.jp

tel : 026-237-6126 (内線 : 831-4247)

e-Learning Newsletter

2011 年 4 月号 No.5

今年度最初のニュースレター No. 5 をお届けします。本号では、年度当初に知っておいていただきたいことを特集しました。先生方、学生の皆さまのお役にたてるよう、様々な支援や情報提供をさせていただきたいと思っています。どうぞ気軽に e-Learning センターのスタッフに声をかけてください。

contents

e-Learning center newsletter No.5

新 e-Learning センターの 2 年目にあたって	1
初めての eALPS (e-Learning サイト)	2
昨年度の教材等の再利用	3
年度当初の eALPS への学生登録	4

新 e-Learning センターの 2 年目にあたって



新年度の挨拶

教職員皆様のご支援ご協力をいただき、新 e-Learning センターも無事 1 周年を迎えることができました。

教育基盤システムは全国的に普及し広く活用されてきています。信州大学では、平成 20 年度から教育基盤システム「eALPS」の開発・整備を続け、その安定運用を図ってきました。この eALPS を利用することにより、ブレンディング教育 (対面授業と e-Learning の併用) が可能となり、PDF・パワーポイントなどの資料、音声・映像などのマルチメディアデータ、Excel などの実習用データなどを教材として学生に提示することが容易にできるようになりました。また、レポート提出やテストがオンライン上で可能となり、紙ベースに比べて容易に数的な成績処理を行うこともできるようになりました。

また、eALPS の利用による効果は、教育プロセスの記録による学習過程の把握ができることです。これによって学生の学習状況の把握が可能となり、教室外での学習時間の確認など、「単位制度の実質化」のための基礎的データの収集や分析ができると同時に、学生のドロップアウトやメンタルヘルスなどに関わる状況を把握することができ、就学指導の充実につなげることもできます。

e-Learning の利用状況

これまでの信州大学の e-Learning 利用状況を見ますと、学年別の eALPS2.0 の利用状況は高年次生ほど低くなる傾向があり、専門科目での利用率が低いことがわかります。1 年次生では必修科目にて eALPS2.0 を使用しているため、利用者数の割合が非常に高くなっていますが、高年次生では専門科目での eALPS2.0 の利用機会が少なくなってしまう、利用者数の割合が低くなってしまうと考えられます (数値は 2009 年度調べによる)。また、共通教育での利用率 (利用科目数/開講科目数) が 20.3% である

のに比べ、全学での利用率は 10.4% と低い。その原因は、信州大学が総合大学であること、学部や教職員ごとに e-Learning への理解が異なること、教職員・授業形態ごとに e-Learning の利用形態が異なることなどによると考えられます。

入学年度別利用状況 (2009 年度調べ)

	利用者数	割合
1 年次生 (08 年度入学)	2,163	99.1%
2 年次生 (07 年度入学)	1,569	89.8%
3 年次生 (06 年度入学)	1,558	70.1%
4 年次生 (05 年度入学)	646	29.4%

※ 割合は 20 回以上アクセスした利用者数に基づく。

新 e-Learning センターの活動

新 e-Learning センターでは、昨年度、「研究開発運用部門」と「ICT 活用支援部門」の 2 部門を組織し、教職員・授業ごとにあった教育支援システムの提案を行ってきました。

研究開発運用部門は、開発運用チームとヘルプデスクチームからなり、新村正明准教授 (工学部) のもと、利用方法に関わる問い合わせへの対応、教育基盤システムの運用、システム関連機能の開発を行ってきました。ICT 活用支援部門は、メディアコーディネータ、映像制作チーム、著作権チームからなり、東原義訓教授 (教育学部) のもと、ICT を活用した教育方法の提案、ICT 活用教育システムの調査研究・活用支援、講義講演会の収録・コンテンツ化及び SUNS を活用した遠隔授業に関わる支援を行ってきました。

これらの部門の活躍もあり、eALPS2.0 の利用者数は、運用開始以降毎年増加を続けてきました。e-Learning センタースタッフが常駐していない繊維学部と農学部では、「eALPS2.0 説明会」(9 月) を開催し、これにご参加いただいた教員の方々からメールやテレビ会議などでご質問やご要望を多くいただき、eALPS2.0 の利用促進につなげることができました。

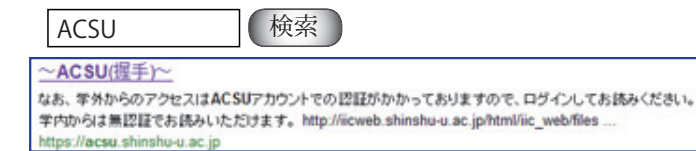
e-Learning センターでは、昨年度に引き続き、信州大学における ICT 活用教育の実施に必要な支援を続けて参ります。また、信州大学の教育研究を一層活性化させるため、新設された「高等教育研究センター」や「総合情報センター」、「高等教育コンソーシアム信州」と連携・協働し、「単位制度の実質化」への対応をめざした ICT 活用教育の支援を行い、中期計画の達成に大きく寄与することをめざして参ります。本年度も引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

初めての eALPS (e-Learning サイト)

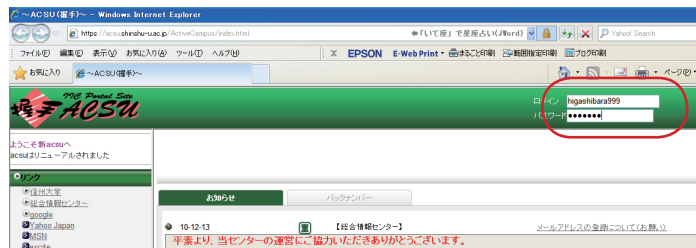
学生の履修登録が完了すると eALPS の準備も自動的に整います。eALPS をまだご利用されていない方は、新学期のこの機会にぜひお試しください。次の 1 から 6 を試していただければ、概要を実感していただけます。

1. ACSU にログイン

① ACSU の画面を表示するには、検索を利用すると便利です。キーワードとして [ACSU] を入力して Web サイトを検索し、ACSU にアクセスします。



② ACSU の画面が表示されたら、右上の欄に業務用 ID（名前 + 数字 3 桁）とパスワードを入力して、ACSU にログインします。



2. eALPS に自動ログイン

③ 左側メニューの [eALPS サイト一覧] をクリックすると、学部名・研究科名が表示されます。

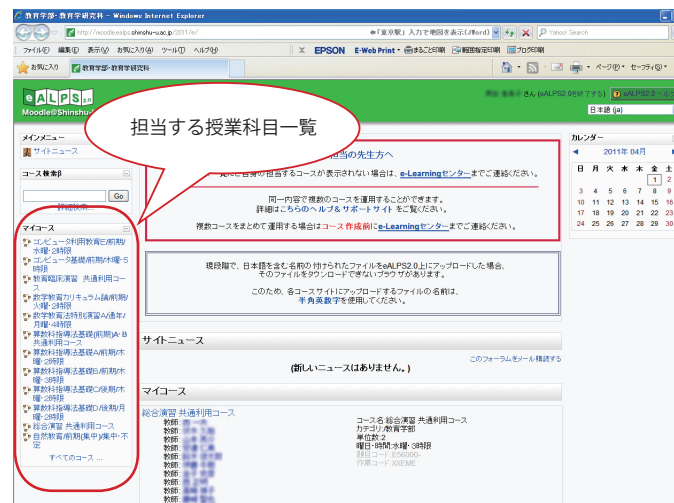


④ 学部名・研究科名を選択すると、eALPS に自動的にログインします。



3. マイコース一覧からコースを選択

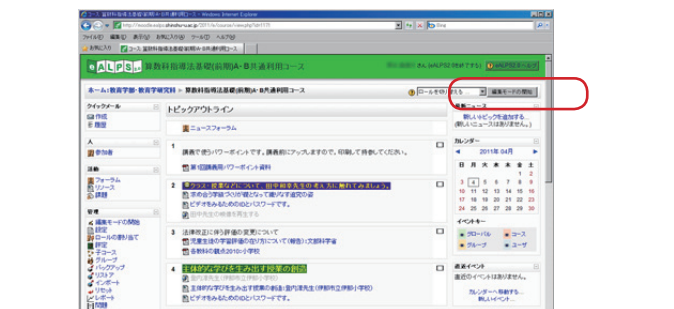
⑤ 担当する授業科目がマイコース一覧に表示されます。ご自身の担当する授業科目がマイコースとして表示されない場合は、e-Learning センターまでご連絡ください。



⑥ コース名を選択すると、そのコースに入ることができます。

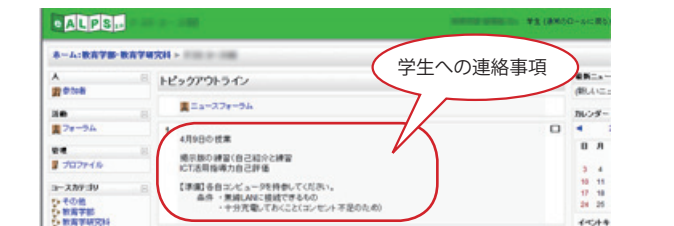
4. 編集モードの開始

⑦ 教員としてコースに入った場合のみ、右上に [編集モードの開始] というメニューが表示されます。このメニューをクリックすることにより、コースの編集作業が行えるようになります。

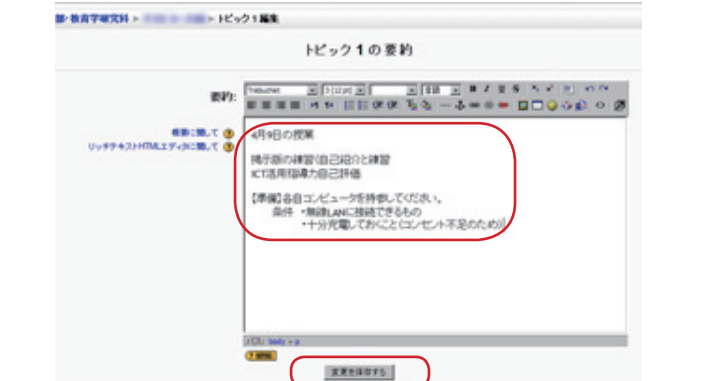
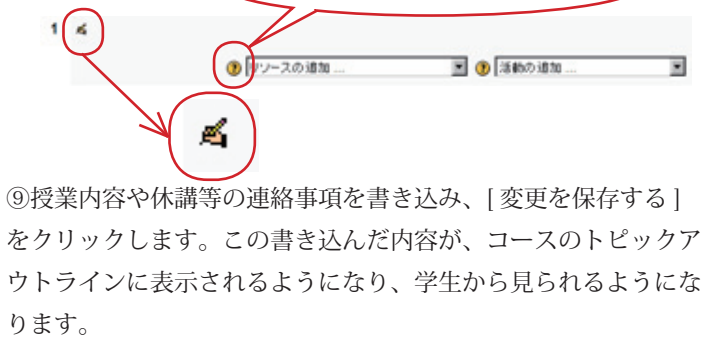


5. コースの編集（教員からのお知らせ作成）

例として、以下の様な学生へのお知らせの作成を紹介します。



⑧ 鉛筆のアイコンをクリックすると、お知らせを入力する画面が表示されます。



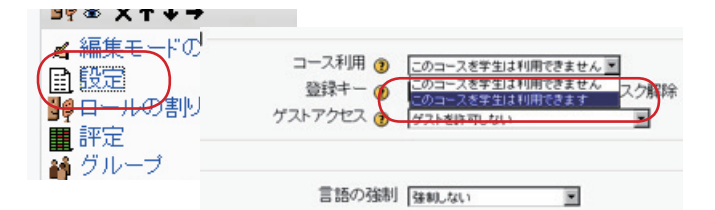
その他、掲示板機能や教材の配布、課題ファイルの提出、小テストなどの様々な機能が利用できます。また、ACSU の「eALPS サイト一覧」のメニューの下にある「eALPS ヘルプ」から詳細な使い方を参照することもできます。

昨年度の教材等の再利用

昨年度の教材等を利用するには、以下の方法があります。

(1) 昨年度のコースを直接参照できるようにする。

教員は昨年度のコースにも入ることができます。学生が昨年度のコースに入るためには、左側メニュー [設定] をクリックして [コース設定の編集] を表示し、[コース利用] を [このコースを学生は利用できます] にします。（デフォルトでは [このコースを学生は利用できません] になっています。）さらに、学生を昨年度のコースにも登録するか、[ゲストアクセス] を許可する必要があります。



(2) 必要なファイルを再度アップする。

必要なデータ（コースにアップした PDF, Word, PowerPoint などのファイル）をご自身のパソコンや USB などに保存しておき、必要に応じて、再度、本年度のコースにアップします。

6. 参加者の利用状況の確認

⑩ 左側メニューの [参加者] をクリックすると、コースに登録されている学生のログイン名や最終アクセスがいつ行われたかなどが表示されます。

